

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 **最終**)

函城中学校区 校番 14 学校名 呉市立函城中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>貫</p> <p>主体的な学びの推進による学力の定着と向上</p>	基礎・基本の徹底	<p>○全国学力・学習状況調査(3年)の結果 3教科平均の通過率30%未満の割合は12.1%で達成できなかった。3教科の平均の正答率の割合は全国平均を5.0ポイント上回ることができた。3教科の平均の無答率の割合も全国平均を3.7ポイント上回ることができた。</p> <p>○3年生の実力テストは、第3回は呉で1位、第4回は3位と取組の成果が見られた。</p> <p>○「家庭学習(塾、家庭教師の指導時間を含む)を平日1学年-80分、2学年-100分、3学年-120分以上行っている」と回答する生徒の肯定的評価は、R4.7: 63.1%→R4.12: 70.5%と7.4ポイント向上したが、1年67.3%、2年59.5%と低く課題である。「自分で計画を立てて勉強している」と回答する生徒の肯定的評価は、R4.7: 70.2%→76.3%と全体としては6.1ポイント向上しているが、2年はR4.7: 71.4%→R4.12: 69.0%と減少しており課題である。</p> <p>○学校評価アンケートにおける学習に関する項目の3年生の数値は平均87%と高く、また、「4とてもそう思う」(4段階評価)の割合も平均50%を超えて高く成果が見られる。1・2年生では、前向きな生徒とそうでない生徒の二極分化が進んでおり課題である。</p>	<p>○授業スタイルの定着とその成果が見え始めており、引き続き、主体的な学びの実現に向けて、「教えて考えさせる授業」を柱に、授業改善を進め、学校全体の授業力を向上させる。</p> <p>○今何を学習しているのかを明確にして授業を行うことにより、生徒の学習に関するメタ認知を向上させ、家庭での学習につなげ、学力の定着を図る。</p> <p>○取組の成果は上がってきているが、自分で進んで学習できない生徒に対しては、学習時間の確保と自分で計画的に学習を進めるように、これまで以上に意識して学習の方法も含め、より丁寧な個別の指導を行っていく。</p>
		思考力・判断力・表現力の向上	<p>○「授業では、課題に対し、主体的に考えて表現する活動に取り組んでいる」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、R4.7: 80.9%→R4.12: 87.8%と6.9ポイント向上したが、目標値93%を下回った。</p> <p>○「生徒同士で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」生徒の肯定的評価の割合は、R4.7: 84.4%→R4.12: 87.8%。</p> <p>○授業の仕方、教え方について学校としての取組の意図が生徒に伝わっていることがうかがえる。「理解がしやすくなった。また、発表もしやすくなった。」「授業が前よりわかりやすくなり、自分の考えを深めることができた。」「生徒にわかりやすく説明して、基礎を定着させ、生徒に問題を解かせることで、考える力を養うことができた。」「話し合う時間が増え、話し合うことで、新しい発見があったり、わからなかったところがわかったりして、より深い学びができた。」「(生徒アンケートより)</p>	<p>○教師がしゃべりすぎず、生徒同士の対話を大切に授業を進める。また、そのために、これまでの計画的な校内研修や授業参観を実施するとともに、日常的な教職員同士のOJTをさらに進める。</p> <p>○ICTを効率的に活用するなど、時間を有効に使い、深化問題に挑戦させ、個人思考や集団思考場面の時間、振り返りで熟考する時間を十分にとることで、さらに「考える授業」を推進する。</p> <p>○全教科で、データやグラフ等を分析し説明したり、理由や根拠を示しながら説明したりする力(「総合・分析能力」「思考・判断・分析能力」)を付けるように指導も今後も継続する。</p>
**	<p>貫</p> <p>自他を大切に共により高め合う生徒の育成</p>	他者のよさに気づき、相手を思いやる態度の育成	<p>○「学校に行くのは楽しい」生徒の肯定的評価の割合は、R4.7: 86.5%→R4.12: 91.4%であった。「4とてもそう思う」の割合も54.7%と向上している。「自分にはよいところがある」R4.7: 77.3%→R4.12: 79.9%、「自分のよさがまわりから認められている」R4.7: 72.3%→R4.12: 77.7%、「自分は誰かの役に立っている」R4.7: 70.9%→R4.12: 80.6%であった。目標を達成することはできなかったが、自己肯定感・自己有用感がわずかではあるが向上しており成果がうかがえる。数値は向上しているが、3年生に比べ、1・2年生の数値が低く今後の課題である。</p> <p>○「自ら進んで生徒会活動に参加している」R4.7: 70.9%→R4.12: 76.3%「生徒会スローガンを意識して取り組んでいる」R4.7: 77.3%→R4.12: 84.2%「生徒会の『今月の生活目標』を守るように努力している」R4.7: 87.2%→R4.12: 92.4%と向上し、生徒会活動を中心に生徒の主体的な活動を推進してきた成果も見られる。</p>	<p>○今後も、生徒指導の三機能を基盤に、積極的な生徒指導、生徒主体の取組を組織的に進め、生徒の自己指導能力をさらに高めていくことで、自己肯定感・自己有用感を高める。</p> <p>○そのために授業でも、学校生活においても、生徒自身に課題を見つけさせ、生徒自らが自分の改善策を考え、解決に向けて努力し、振り返り、更に発展させていく取組(生徒自身でP→D→C→Aサイクルを実働させる)を継続する。</p> <p>○また引き続き、「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」を育てることを目標に組織的に指導する。</p>

		<p>目標達成に向け、気付き・考え・行動できる生徒の育成</p>	<p>○「夢や目標に向けて努力している」と回答する生徒の肯定的評価の割合はR4.7:82.3%→R4.12:85.6%と目標を越えることができなかったが、「4とてもそう思う」の割合は48.2%と高いことは評価に値する。2年生の肯定的割合78.6%をあげることが課題である。 ○「自分で学習に粘り強く取り組んでいる」等、学習や目標に向けて努力しているという項目の「4とてもそう思う」の割合は平均で4割と高くなっている一方で、前向きに取り組んでいない生徒との二極分化の傾向が見られ課題である。</p>	<p>○成果も上がっているが、生徒の意識の二極分化も進んでいるため、さらに認め合う学級づくりを基盤に、キャリア教育の視点から取組の見直しを図り、目標を持たせながら、一人一人に対しより丁寧な進路指導を行っていく。また、今後も積極的な評価(マイスター制度等)と生徒の活躍の情報発信を行い、さらに認め合う集団づくりを進める。</p>
*	<p>規則正しく生活し、活力のある生徒の育成</p>	<p>ⓐ 体力の向上</p>	<p>○令和4年度の新体力テスト(2年)の県平均(速報)が出されたので、本校の現状を見てみると、県平均を上回った種目は2年男子8/8、2年女子5/8であった。体力合計点は、2年男子は県平均より6.3ポイント高く、2年女子は0.7ポイント下回った。 ○中間で報告したように、新体力テストの県平均(R1)を上回る種目は、全体で28/48(R3:35/48)、男子21/24(R3:20/24)、女子7/24(R3:15/24)であった。 ○「体力を高める努力をしている」生徒の割合もR4.7:78.0%→R4.12:78.4%と低いままであった。コロナ禍であり活動が制限されていることも影響していると考えられる。</p>	<p>○引き続き、体育の授業で効果的な補強運動を行うとともに、新体力テストの結果を生徒に返し、目標を持たせながら主体的に取り組ませる。また、部活動顧問との連携、保護者(三者懇談で保護者に渡す)との連携をさらに進め、教職員の意識(R4.7:53.8%→R4.12:53.8%)と生徒・保護者の意識を向上させる。 ○保体委員会の日常的な活動として、昼休憩のグラウンドでの活動の奨励と、朝学活での体力作りを継続する。</p>
		<p>生活リズムの確立</p>	<p>○「時間の三点固定を意識して行動し、生活リズムが確立できている」と回答する生徒の肯定的評価の割合は、R4.7:68.8%→R4.12:69.8%、保護者の割合もR4.7:61.1%→R4.12:58.5%と成果は見られなかった。 ○「携帯電話等を、PTA宣言どおり、21時以降は保護者に管理してもらっている」生徒の割合はR4.7:61.7%→R4.12:66.9%、保護者の割合もR4.6:61.8%→R4.12:56.9%と成果が見られなかった。 ○現状を生徒と保護者に伝え、指導を行ってきたが、PTA宣言については、多様な意見をもつ保護者も多くなり、なかなか改善が見られない。見直しや再検討も必要である。</p>	<p>○「学習時間」も減り、「自分で計画を立てて学習している」生徒の割合も下がっており、引き続き、「時間の三点固定」と「PTA宣言」の取組をセットで保護者とも連携して進める必要がある。これからも現状を生徒と保護者と共有しながら、一緒に考えていきたい。生徒と保護者への情報等発信も引き続き継続し、PTAと協力しながら、取組を進め、生徒が自分の生活を自分でコントロールする力を向上させていきたい。</p>
		<p>ⓑ 防災教育の充実</p>	<p>○「いつも『自分の命は自分で守る』ことを意識して生活している」R4.7:90.1%→R4.12:90.6%(4とてもそう思う70%)「いつも『土砂災害対応携帯マニュアル』をカバンに入れいつでも見ることができるようになっている」R4.7:87.2%→88.5%(4とてもそう思う68%)と高いが、目標を達成できなかった。 ○「家庭で防災について話をしたり、いざというときの家庭のルールを決めたりしている」生徒R4.7:72.3%→R4.12:81.3%、保護者R4.7:67.2%→R4.12:67.7%であり、生徒の意識向上に対しては成果があった。 ○4月から計画的に取り組んだ成果が見られる。特に生徒会の防災の取組は評価され、ぼうさい甲子園で特別賞「はばたん賞」を受賞した。</p>	<p>○防災教育については、生徒の意識の高さに取組の成果が現れている。特に生徒会の主体的な活動は評価できる。今後も当事者意識を持たせる防災教育を進め、「自分の命は自分で守る」「みんなの命をみんなで守る」力を高めていく。 ○三者懇談時の「わが家のルール(災害時の対応)」や避難訓練時の家庭での話し合い等の取組により、引き続き、保護者も巻き込んだ取組を粘り強く継続していきたい。</p>
<p>健やかな体の育成</p>	<p>教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備</p>	<p>生徒と向き合う時間の確保</p>	<p>○「生徒と向き合う時間が確保されている」と回答する教職員の肯定的評価の割合は、R4.7:53.8%→R4.12:69.2%であった。働き方改革、業務改善への意識は高く取組を進めているが、実際には依然として生徒と向き合う時間が確保されていると感じている割合が低いことは大きな課題である。本校の規模の学校では教職員数が少なく、出張や休みが重なると、授業が組めなくなるなど、教職員の負担が大きい。その中で、先生方は本当によく取り組んでおり、上述した成果をあげている。</p>	<p>○引き続き、教職員一人一人の資質・能力を向上させ、協働して取組を進め、学校全体の教育力と業務遂行能力を高める取組を推進する。 ○取組後PDCAを確実に進め、業務改善を進める。学校教育活動全体をゼロベースで見直し、思い切った取組に挑戦する。 ○これまでの取組の見直しと徹底を図る。</p>
		<p>長時間勤務の削減</p>	<p>○時間外勤務時間が月45時間を超える教職員の月平均人数は3.6人(延べ32人)(R3:4.2人)であり、この点に関しては改善できている。しかしその一方で、土日に仕事にきたり、持ち帰りの仕事も増えており、楽観できない。</p>	<p>○教職員一人一人が当事者意識を持ち取り組み、「学校経営に積極的に参画している」と回答する教職員の割合69.2%を向上させる。</p>
	<p>業務改善</p>			